

ひろしまの遺跡

第129号

弥生時代後期を中心とする集落跡

—横田1号遺跡(東広島市)—



発掘作業風景(北東から・手前がS12)



遺跡遠景(南から・奥が龍王山)

横田1号遺跡は西条盆地北西の龍王山から延びる細長い舌状の丘陵上にあります。都市計画道路吉行飯田線街路工事に伴い、発掘調査を実施しました。削平や攪乱を受けた部分もありますが、全体的に遺構の残りはよく、弥生時代後期～古墳時代初頭を中心とする竪穴建物跡(SI)11軒、掘立柱建物跡(SB)2棟、溝状遺構(SD)4条、土坑(SK)24基などを確認しました。

竪穴建物のなかには径が6mを超える大型のものもあり、深さが1m近いものや溝を伴うものもありました。

発掘調査速報

横田1号遺跡 (東広島市西条町寺家)

調査期間 令和4年10月3日～令和5年2月3日

横田1号遺跡は令和4年7～9月に調査を行った福原南遺跡の200～300m東にあります。平成22(2010)年度に宅地造成に伴う発掘調査が実施されており、竪穴建物跡33軒のほか方形の圍繞(いじょう)施設をもつ独立式棟持柱掘立柱建物跡が確認されています。また、再加工された細形銅剣破片やガラス製管玉・小玉等が出土するなど注目される遺跡です。

今回の調査区は、平成22(2010)年度調査区の南東にほぼ接する場所です。11軒の竪穴建物跡は1軒が方形で、残りはほぼ円形です。径が8.8mある大型のもの(SI2)や、1m近く掘下げられたものも確認されています。また、壁際から直線的に延びる溝を伴う竪穴建物跡を2軒(SI1・6)確認しました。その他、同じ場所に時代の異なる3軒の竪穴建物跡(SI6・8・9)が作られていたことも明らかになりました。

24基の土坑のなかには前期の弥生土器が出土したもの(SK1)や中期の弥生土器が出土したもの、中世の土師質土器が出土したものもあります。また、土坑には6基の貯蔵穴もありました。貯蔵穴の上部の径は0.7～1.1mで、いずれも底が広がるフラスコ型で、深いものは1.6mの深さがあります。2基並んだものが2組あり、2基は単独で掘られていました。貯蔵穴の中からも比較的多くの土器が出土しています。このほか、多数のピットを確認し、1間×1間の小規模な掘立柱建物跡が2棟復元できました。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器等の土器類、楔型石器・剥片・砥石等の石製品が出土しました。

前回調査の成果と合わせてみると、竪穴建物跡は尾根の東斜面を選んで作られていることが分かります。今回の調査区でも径6mを超える大型のものがいくつかみつかったこと、本遺跡最大規模の径8.8mのものがあることからこの場所が集落の中でも重要な場所であったことが窺えます。(岩本芳幸)



溝を伴う深い竪穴建物跡SI1 (東から)



3軒重複するSI6・8・9 (北東から)



弥生土器出土状況SK1 (南東から)



2基並んだ貯蔵穴SK9・10 (北から)

② 地頭分津ノ尾第1～5号古墳（福山市瀬戸町）

調査期間 令和4年4月11日～令和4年12月2日

地頭分津ノ尾第1～5号古墳は、北流する瀬戸川に西面した南北方向に延びる丘陵上、標高60～70m付近に立地する古墳群です。令和元年度に一部範囲の発掘調査を実施しており、今年度はその続きとして、各古墳の未調査だった範囲を調査しました。

第1号古墳では、時代がわかる遺構は確認できませんでしたが、土器、須恵器など、昔の人々の活動を示す遺物が出土しました。第5号古墳では、令和元年度に検出した周溝の続きと考えられる落込みを検出しました。これまでに速報した第2～4号古墳の調査成果も総合し、地頭分津ノ尾古墳群は、径10m前後の円墳のみから構成される小規模古墳群であることがわかりました。造営時期は古墳時代前期後半から中期頃（概ね4世紀後半から5世紀頃）と推定できます。調査地周辺では中期頃の古墳群の発掘調査例は少なく、貴重な成果があがったと言えます。

また、調査地では、古墳に伴う遺物のほかにも、土器、須恵器、白磁、銅銭、サヌカイトなど様々な時代の遺物が見つかっています。古墳時代以外にも、様々な時代に、この丘陵上で人々が活動していたことがわかりました。
(村田 晋)



古墳群全景（北東から）



第3号古墳埋葬施設完掘（北東から）



作業風景（測量）



作業風景（遺構検出）



調査地からの出土遺物



③ 鞆港湾施設跡（福山市鞆町）

調査期間 令和4年10月31日～令和5年1月5日

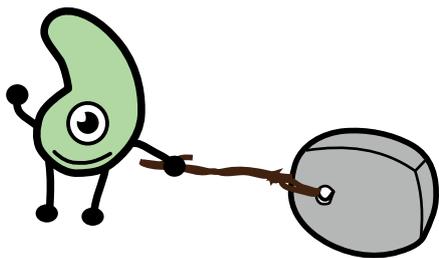
今回の鞆港湾施設跡の発掘調査は、鞆地区の高潮対策として実施される起伏式ゲート設置工事に伴うものです。調査は、昨年度までに北雁木と東雁木の大半の部分を実施しており、今年度は東雁木の残りとして、それに続く護岸の陸側の部分を調査しました。

調査の結果、昨年度確認された建物の礎石に続く礎石などは検出できませんでしたが、東雁木の陸側南端で石組みの遺構を1基検出しました。遺構の形状は箱式石棺状を呈し、石材を陸地側から護岸に向かって縦長に設置し、さらに海に注がれる水路へ続いていました。遺構の石材は、雁木の石材などを使用して並べ、上部は暗渠状にコンクリートで構築されていました。道路側には排水用と考えられる穴が存在し、内部の沈殿状況などから、トイレの汚物などの生活排水を処理する施設であった可能性が考えられます。

繫船柱は護岸に2基確認されており、基礎部分をコンクリートで固めて上部には鉄製の筒を巻き、さらにチェーンで護岸の海側に設置してあった駐車場の基礎部に繋がれていたことから、アンカーとして利用されていたと考えられます。柱の頂部はいずれも欠損していましたが、形状は柱部が断面円形、基礎部が四角形を呈しており、刻印などは確認できませんでした。形状や基礎部にある矢穴などの特徴から、近世の石垣に使われていた石材を加工したものであると推定されます。

調査区内の基本的な土層は、砂による埋め立ての上層に角礫を埋め込んで舗装の基礎としていました。埋め立ての土に入っていたものから、埋め立ての時期は1950年代後半～1980年代前半と考えられます。

遺物は、近世以降の陶磁器・土師質土器・瓦などが出土しました。（恵谷泰典）



東雁木第2次（昨年度調査）（南東から）



検出した石組遺構（北から）



埋立の状況（北西から）



復元した繫船柱

令和4年度

ひろしまの遺跡を語る

1月28日（土）に、令和4年度「ひろしまの遺跡を語る」を開催しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から延期となり、楽しみにしてくださっていた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。会では、当事業団が今年度調査した遺跡の発掘調査報告と、昨年度から持ち越しとなっている三角縁神獣鏡をテーマとした事例報告及び講演を行いました。事例報告では当事業団元職員による広島県内から出土した三角縁神獣鏡についての報告を行いました。

講演では、大阪大学大学院の福永伸哉先生が三角縁神獣鏡について、過去の学説から最新の知見までを分かりやすくお話くださいました。

また今回は前日から雪が降り積もり、交通機関にも影響を及ぼすなど、非常に足元が悪い中での開催にも関わらず、123名の参加者がありました。ありがとうございました。



福永先生講演の様子

日 程

13:00～13:10	開 会 行 事	
13:10～13:20	調査研究報告Ⅰ	「二才原遺跡の発掘調査」 当事業団職員 恵谷泰典
13:20～14:40	調査研究報告Ⅱ	「福原南・横田1号遺跡の発掘調査」 当事業団職員 岩本芳幸
13:40～14:00	調査研究報告Ⅲ	「地頭分津ノ尾第1～5号古墳の発掘調査」 当事業団職員 村田 晋
14:00～14:30	事 例 報 告	「ひろしまの三角縁神獣鏡」 元当事業団職員 伊藤 実
14:30～14:45	休憩（事務連絡・展示見学）	
14:45～16:15	講 演	「ヤマト政権の成立過程と三角縁神獣鏡」 大阪大学大学院人文学研究科 教授 福永伸哉
16:15～16:20	閉 会 行 事	



調査研究報告の様子



出土遺物の展示

考古学 アラカルト 59

遺跡出土人骨が 教えてくれること

今年度に発掘調査が終了した、福山市・地頭分津ノ尾第2号古墳では、令和元年度の発掘調査時に、ほぼ完全な形の人骨1体分が発見されました。

大部分の遺跡では、骨は土中で分解されてしまい、骨が見つかること、特に全体がわかることは非常に珍しいと言えます。今回は、広島県の遺跡出土人骨からわかったことを、いくつか選んで紹介します。

追葬の風習～古墳時代の事例から～

府中市・山の神第1古墳（4世紀）では、男女1体ずつの人骨が、幅40cmほどの狭い石棺内から見つかりました。はじめに女性（推定20代）が葬られ、しばらくしてから古墳の蓋石が外され、男性（推定30代）が追葬されたようです。

庄原市・岡東第1号横穴墓（7世紀）では、男性2体分の人骨が見つかりました。手足が太く、屈強な体格だったようです。山仕事などで鍛えたのでしょうか。人骨同士は離れていたのに、2人の骨が混ざっていたため、埋葬後も、人が部屋を出入りして骨を動かしたことがわかります。

庄原市・八鳥矢内追第1号横穴墓（7世紀）では、推定年齢2歳半の幼児から60歳未満の熟年まで、10体分の人骨が見つかりました。家族のお墓でしょうか。どの骨も移動しており、追葬のたび動かされたのかもしれませんが。

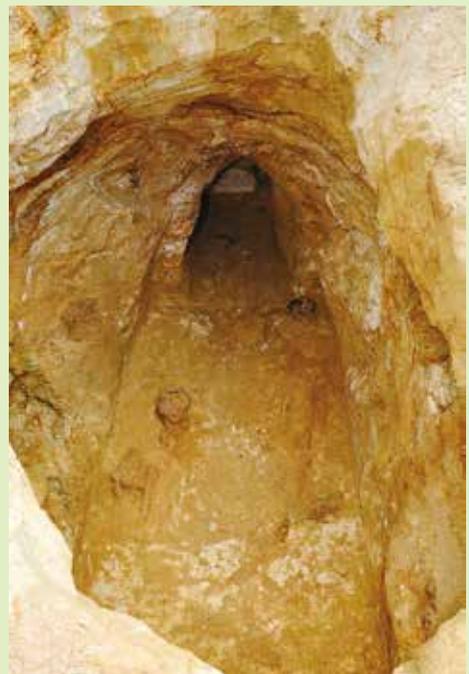
以上、追葬の風習は現代日本では馴染みがありませんが、古墳時代には広く行われたことがわかっています。骨がなければ、わからないことの好例です。

山間地帯の縄文人～帝釈峡遺跡群の事例から～

庄原市から神石高原町にかけて、石灰岩の洞窟、岩陰を利用した、帝釈峡遺跡群が広がっています（旧石器時代から縄文時代）。石灰から溶け出た成分によって土の酸性が中和され、通常は分解される人骨も残りやすい環境のため、実に70体以上もの人骨が見つかっています。数多くの動物骨、魚骨、貝殻も保存されており、おかげで、当時の遺跡群周辺に、絶滅動物も含む様々な生き物が生息していて、人々がそれを捕食して暮らしていたことがわかりました。「縄文のタイムカプセル」です。



地頭分津ノ尾第2号古墳 人骨



岡東第1号横穴墓 墓内の状況

さて、このように聞くと、帝釈峡遺跡群の人々は、豊かな自然の恵みに囲まれて、穏やかに暮らしていたように思えます。しかし、見つかった人骨によると、それはどうも違うようです。専門家の先生の研究によれば（中橋2012）、幼い時に飢えや重病で強いストレスがかかると、歯の成長が止まり、横縞状の痕跡ができます。帝釈峡の人骨の歯には、この痕跡が高い頻度で確認されています。また、沿岸部の縄文人の骨に比べて、特に脚がよく発達しており、脚に負担のかかる生活だったと考えられています。脊椎の一部には強い負荷でつぶれた痕跡もあったとのこと。豊かな自然に囲まれていても、実際は、険しい山中を、食糧確保に動きまわる、体力的に非常に厳しい生活を送っていたようです。

なお、帝釈峡縄文人の間では、若い頃に上顎の犬歯を抜く風習があったようです。抜歯の風習は、現代日本では聞きませんが、日本各地の縄文人骨で確認されています。世界の民族例などを参考に、大人の仲間入りをする時など、人生のある時に行われた通過儀礼の痕跡と考える人もいます。

人骨が見つかることの重要性

大抵の遺跡では、人骨など、ヒトそのものの痕跡が見つかるのは珍しいことです。ですから、多くの場合、土器などの道具、建物跡などの遺構の情報を中心に、当時の生活や社会を考えることとなります。一方、人骨は、遺物や遺構からはわからない情報を教えてくれます。その人の年齢、性別、身長などの基本的な情報に始まり、ケガや病気の有無、日常の習慣、現在では見られない風習の痕跡など。人骨の状態には、その人が生きた社会の文化や環境が、より直接的に反映されていると考えられています。ですから、遺跡で人骨が見つかった時は、丁重にお取り扱いし、日本の歴史像の追及に役立てさせていただくのです。

（村田 晋）

引用・参考文献

中橋孝博2012「帝釈峡の石器時代人骨の調査成果と今後の展望」『帝釈峡遺跡群発掘調査50周年記念シンポジウム要旨集』広島大学大学院文学研究科考古学研究室・庄原市・同教育委員会・神石高原町・同教育委員会。



神石高原町・帝釈観音堂洞窟遺跡
(写真は個人提供)



庄原市・帝釈峡博物展示施設時悠館と展示状況

市町研修

当室では広島県教育委員会からの委託により、県内の市町の文化財担当者を対象とした研修を行っています。今年度は令和4年10月12・13日に福原南・横田1号遺跡(東広島市)において発掘調査実習課程、11月15・16日に当室において整理・報告書作成課程の研修を行いました。発掘調査課程は6名、報告書作成課程は8名の参加がありました。



発掘調査実習課程(遺構の測量)



整理・報告書作成課程(遺物の実測)

お知らせ

令和4年度の報告書を刊行しました

	書名	市町名	概要	頒価
埋文報告 第89集	石鎚権現遺跡E地点	福山市	弥生時代後期前葉を中心とした集落跡。また、堅穴建物跡1軒の床面内で確認した土坑4基は、建物跡に伴うと考えられ、広島県内では大明地遺跡に次いで2例目となった。墓坑のうち17基は、調査区最高所平坦面に径約7m範囲の中に配置されており類例がみられない。時期は弥生時代中期と考えられる。	900 (送料別)
埋文報告 第90集	二才原遺跡	府中市	倉庫の可能性のある建物跡や地割を示す溝が確認されたほか、緑釉陶器、白磁、瓦器、転用硯、瓦など、国府の中核地区からの遺物と同様のものが出土している。国史跡である備後国府の国庁などが推定されているツジ地区から離れた地域においても、国府に関する施設の存在が想定される調査例となった。	200 (送料別)
—	年報19	—	令和3年度における当調査室の実施した事業概要のまとめ。	—

頒布などご希望の方は当室までご連絡ください

あとかき

129号を編集している立春の現在、寒さも緩くなってきました。横田1号遺跡は昨年末の大雪に見舞われ、新年に入ってから寒波と戦いながらの調査となりましたが、無事に終了しました。「ひろしまの遺跡を語る」でも、雪によって交通網が乱れるなど、寒さの影響を受けました。ちなみに、当室の調査員に暑い夏と寒い冬、どちらの現場が辛いか聞いてみたところ、夏1名、冬8名、どちらもが1名でした。冬は寒さで思うように体が動かず、作業の進みが悪くなるのが主な理由です。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第129号

発行日 令和5年3月17日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

